

川でむすぶ

夏井川流域
ネットワーキング

<事業報告>

- ①好間4小学習支援 (6/7・7/5・8/30・11/28)
- ②福島県水環境活動団体交流会 IN 石川 (10/14~15)
- ③ウォーキング (10/29)
- ④水環境活動団体 Zoom 懇談会 (11/28)
- ⑤定例清掃 (10~12月)

<寄稿文>

いわきの鳴き砂



川づくりはまちづくりと一体に

橋本孝一

“明けましておめでとうございます。”会員の皆様には新たな気持ちで、“辰年”の一步を迎えられたものと思います。夏井川流域での動向を中心に、旧年を振り返って、新年に向けて歩み始めたいと思います。

◆私達にとって、昨年9月8日の豪雨災害は、4年前の東日本台風時の災害復旧工事が進みつつある中での災害となり、地球的な規模の気候変動の影響を、もろに体感する結果となりました。

今回の災害は、台風13号が熱帯性低気圧に変わり発生した「線状降水帯」による豪雨により、夏井川水系では、新川本川中流域及び新川支川の宮川流域で、越水・溢水が発生し、流域内の内郷地区では、特に大きな被害が発生しました。なぜ、このような災害が発生したのか、原因の究明と対応策の検討が急がれる状況です。私達も流域住民としての立場から、被害実態の調査を踏まえ、行動していこうと思っています。

◆ここ数年の国内の水害の実態を振り返って見て、「流域内の地理的な条件を踏まえた適切な土地利用がなされていたのだろうか？」という思いを強く感じます。“洪水は川に閉じ込めて、一刻も早く海へ流してしまえ”という発想から抜け切れず、十数年前から「総合治水」という考え方はあったものの、川づくりは、「行政の担当部局任せ」というのが実態だったのではないのでしょうか。ここ数年の全国的な水害を踏まえ、「流域治水」なる考え方が提唱されるようになりましたが、そのような考え方が、日常生活の中に根付くには、流域住民の参加は不可欠です。「流域治水」の考え方が絵に描いた餅にならないために、流域住民が主体となって、「まちづくり」と一体になった「川づくり」を進めていきましょう。

(2024年元旦)

<事業報告> ①好間4小学習支援

佐藤雅子

令和5年(2023年)の支援授業は4回、当会とNPO法人いわき環境研究室とで行いました。

◆第1回 6月7日 好間川水源～夏井川河口まで(太平洋)全校生30名。

○好間4小 第1回目(6月7日(水)水源～夏井川合流点～河口)、全校生30名、バス2台



水源(雨降山)



夏井川左岸河口堤防から



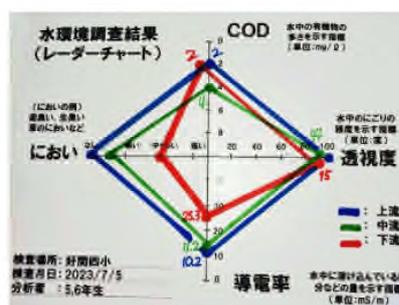
(夏井川右岸河口防波堤階段で昼食)



河口でカニ釣り

◆第2回 7月5日 好間川 水生生物調査、水質調査。5,6年生10名。

○好間4小 第2回目(7月5日(水)好間川で水生生物(3~6年21名)、水質調べ(5,6年生13名)、



◆第3回 8月30日 好間川 水生生物調査、川遊び。全校生30名。

児童全員が互いによく知り合っており、上級生のお兄ちゃんお姉ちゃんが小さい子の面倒をみる。下級生も信頼して行動しています。川の中でも互いに名前を呼び合っている風景は、昭和の子どもだった私たちが遊んでいた頃を彷彿させました。好間川という美しい自然環境に恵まれて、多数校には真似できない少数の利を得ている好間四小校は、今や貴重な学校です。川は地勢や水生昆虫を知り、水、動植物などとともに人間も育まれていることを知る場所なのです。こういう状況にできるのは、校長先生はじめ、地域のみなさま、公民館、役所の方々などのご理解と応援

のおかげです。そしてきれいな好間川の流れでの笹舟競争は、いつも最高にたのしい遊びです。

○好間4小 第3回目(8月30日(水)好間川で、水遊び(全校生31名)、



◆第4回 11月8日 水防災学習。5年生7名、6年生6名。

今年9月、いわき市で線状降水帯による水害が発生したばかりで、子どもたちの記憶にも新しく、ジオラマ(小型模型)実験でよく理解したようでした。原田先生の「地球温暖化と水災害」の話から始まって、流域治水、分水界、森林保水力、砂防ダム、堤防、川の流れの変化など、ジオラマの部分に触る、土を除いて川をつくり洪水を起こす、ダムに土、岩など流すなどを体験しました。洪水時の対応では、身に迫った危険から逃れる方法を自分事として考えてみました。実質的なことで児童が真剣だったことは明らかです。

児童それぞれがタブレットを持って録画していたので、現代の授業の変化を見ました。

*橋本先生はじめNPO法人いわき環境研究室のみなさん作成のジオラマはたいへんよくできていて、支援授業の回を重ねるごとに進化しています。各人の努力に頭が下がります。こんなに素晴らしいものを子どもだけに見せるのはもったいない。さすがに研究室!

大人でも川を体験した人が少なくなっています。ぜひ大人にもこんな授業を開いたらどうか、提案いたします。

○好間4小 第4回目(11月8日(水) 水防災講座(5、6年生13名)、



<事業報告> ②福島県水環境活動団体交流会 I N石川

阿部孝男

今年度の福島県水環境活動団体交流会は石川町の“ひとくらす”（旧中谷第二小学校）で10月14日（土）と15日（日）の2日間に亘り行なわれ、開催直前まで参加人数が定まらない状況でしたが、結果的に交流会参加者が80名超えという盛況の中開催されました。

福島県水環境活動団体交流会会長の高橋宗彦氏の開会挨拶～来賓挨拶に始まり、基調講演（川の授業-1）は『僻地からの挑戦』と題し、地元学校法人石川義塾の学校長森涼氏が学校創設からの経緯や学校と地域との関りをはじめ、学校が目指している文武両道に加えた人間形成を重視した育成のお話など興味深い講演でした。

（川の授業-2）は『流域治水について』と題して、国土交通省福島河川国道事務所の丸山和基氏から、流域治水の重要性や事務所での取り組み、関連組織や団体との連携などについてお話しされ、（川の授業-3）では、福島県県中建設事務所所長の芳賀英幸氏が「石川地方の河川改修状況」と題し、地元今出川をはじめとする県中建設管内の改修状況を説明されました。

事例発表では以下の4団体から各団体の活動状況や報告がありました。

事例発表① 今出川清流を守る会（石川町）

事例発表② 遊水会（須賀川市）

事例発表③ もとみやプラネット・NPO法人輝く猪苗代湖をつくる県民会議
「安達太良川&猪苗代湖水環境学習事始め」

事例発表④ 「阿武隈川流域連携」（福島大学川越清樹教授）

各団体の活動状況や内容、地域性なども伺うこともできた他、高齢化や資金面での課題など共通の話題にも傾きながら、有意義な事例発表の聴講でした。



基調講演・事例発表・質疑応答などの様子



集合写真

夜の部の意見交換会（懇親会）は、福島大学の学生さんが参加し若者たちとの活気のある交流と思いを語り合い、恒例の各参加者からの“命の水”の差し入れがあり、また、サプライズでサクソとピアノ演奏もあり大変盛り上がりました。その後は部屋での2次会・・・雑魚寝状態で夜が更けて行きました。



“命の水”



夜の部の懇親会



2日目はあいにくの雨模様でしたが、地元今出川の清流を守る会の案内で今出川の溪流から下流の現在行われている改修工事状況や石川町の旧跡地などを案内して頂き、昼食後解散となりました。



現地視察（左から、今出川溪谷・分水嶺・今出川改修状況説明）の様子

今回、福島大学の川越教授の声掛けで参加団体をはじめ学生さんとの交流の輪を深め、若いアイデアや様々な観点からの意見を貰い活動のヒントを得て行けるよう取り組みをはじめました（『事業報告4 水環境活動団体 Zoom 懇談会』を参照）ので、今後の交流会にも生かしていきたいと思います。

今回準備を進めて頂いた事務局のみなさん、会場として使わせて頂いた“ひとくらす”のみなさん、大変お世話になりました。

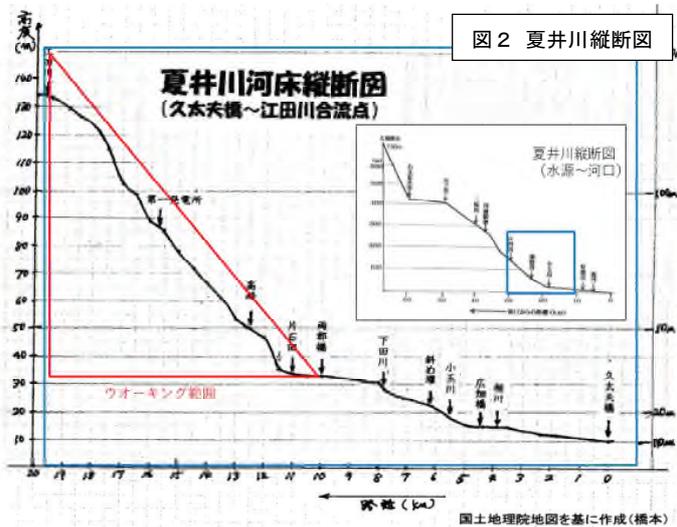
次回は福島市での開催に決定しましたので、来年また福島市でお会いしましょう。

<事業報告> ③ウオーキング (上小川～江田)

桶田隆司

令和5年10月29日、夏井川沿いウオーキングを行いました。このウオーキングは、夏井川の河口から上流の水源を目指して、毎年1回行っているもので、今回で5回目となります。コースは、前回のゴール地点、上小川の片石田構造改善センターから江田キャンプ場までのL=6.2kmです。参加者は17名（小学生2名、高校生2名、大人13名）。

昨年までは、令和元年の台風19号の被害対応の工事が進む夏井川が中心でしたが、今回は、夏井川の中流部にさしかかり、夏井川渓谷も楽しめる区間になります。



今回、山間部に入り今までとは違った夏井川(川幅、石の大きさ、流水の速さ、水の透明度、周辺動植物)を感じる事が出来ました。図2夏井川縦断面(橋本代表作)で解るとおり、河川勾配も急で道路も登り勾配となっています。高低差120mでかなり疲れしました。



ウオーキング状況



夏井第一発電所「霜月橋」



ウオーキング状況



河原にて昼食



図1 位置図

途中の、夏井川第一発電所で見学休憩を取りながら進みました。

渓谷の樹木に異変が見られました。本来、1本の木の中で、緑の葉と紅葉した葉が見られるはずですが、緑の葉と枯れた葉しかない木が多く見られました。原因は、秋になっても気温の高い日が長く続いたため、緑の葉が永く生き続け、気温が急に下がって紅葉せずに枯れてしまったようです。ここにも気候変動・温暖化の影響が出ているようです。



無事完歩!

無事に完歩した後の昼食は、江田キャンプ場前の夏井川の河原にブルーシートを敷いて食べました。夏井川の流れる近くに見ながら食べるおにぎりの味は格別です。暖かいスープもいただき、疲れた身体に活が入りました。

参加された皆様、お疲れ様でした。来年も頑張りましょう!

<事業報告> ④水環境活動団体 ZOOM 懇談会

桶田隆司

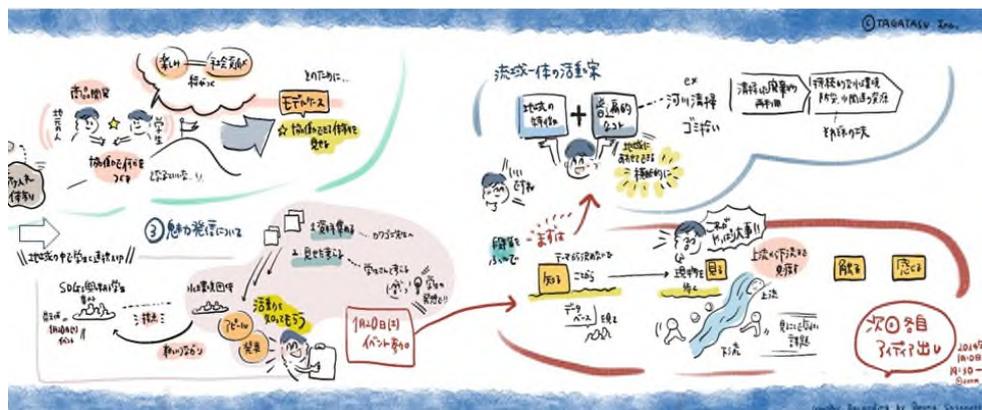
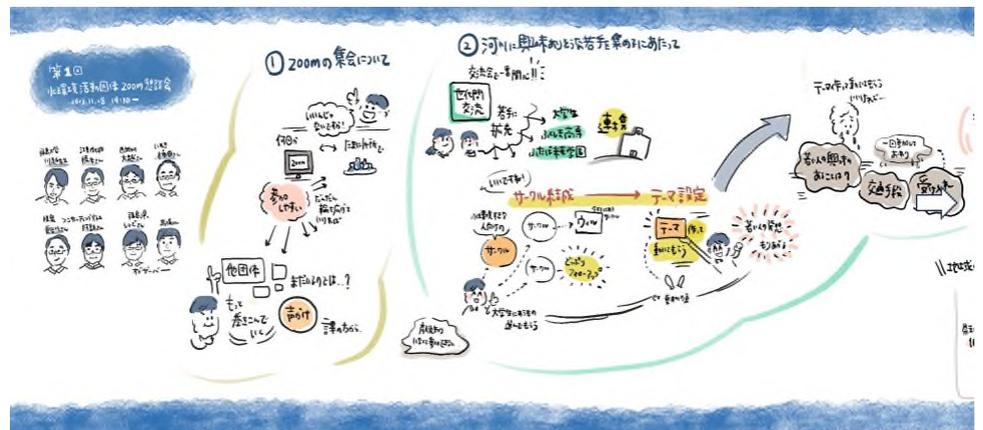
令和5年11月28日、福島大学の川越清樹教授のご発案で、『持続的な水環境活動に向けた連携、協働』を進めるための懇談会が開催されました。

川越先生は、10月に開催された福島県水環境活動団体交流会（さらさら）に参加され、次の提案をされました。流域治水が推進されている中で、治水だけに限らず“流域のあらゆる関係者”の一体化した活動が望まれている。この活動を行う団体の課題に後継者不足が挙げられている。地域個別に若手後継者を集めることは困難でも、各地域の連携を核にして、河川に興味のある若手を送り込める組織的なグループの結成を提案され、この議論を進めるため円滑に交流できるプラットフォーム（ざっくばらんに情報共有できる場）を企画されています。

これを進めるための第1回懇談会として ZOOM を利用して開催されたものです。

参加者は6名、オブザーバとして福島県復興総合計画課の馬場課長、宍戸主幹の2名が入り、計8名で行われました。当会からも3名参加しました。

議論された4つのテーマと要旨は、グラフィックコーディング(雑たがやす 笹本さん提供)の描写にとっても分かりやすくまとめられています。



※懇談会の進行と同時に描画されました。
すばらしい!

◆水環境サークルの中心となる河川に興味のある若手を集めるために、これまでの活動発表データを調査し、若い人の視点でテーマを絞り込み（福島大学川越研究室の学生さん）、魅力を広く発信（県のイベント、SNS等）する。

◆流域一帯の活動の展開には、地域の特徴ある活動も重要だが、地域にあわせてできる普遍的な活動から進めてみるのがよい。まずは、上流から下流までを普遍的に『知る・見る・触る・感じる』ことから始めましょう。

などを共有しました。

次回も ZOOM 開催で、R6年1月10日 19:30～の予定です。

- ①これまでの水環境活動団体の活動を見た学生視点で興味のあるテーマ（案）を拝見して懇談。
 - ②上流～下流まで俯瞰して『知る・見る・触る・感じる』事の具体的なアイデアを持ち寄り懇談。
- 当会が行っている活動や他の活動団体との交流により、『子どもたちの笑顔が見える夏井川』がより実践されることを大いに期待し、わくわくしております。
多くの皆様の参加をお願いします。

＜事業報告＞⑤定例清掃

田中博文

当会では、毎月第一土曜の朝7時30分から清掃活動（草刈、ごみ拾い、泥上げ等）を行っています。清掃場所は、当会の事業を行っている場所、小学校環境学習支援を行っている場所を中心に、①夏井川河口サイクリング公園脇の親水広場、②夏井川防災ステーション周辺、③新川アリオス裏のひょうたん島の3箇所を主とし、当会事業以外にも親水空間として市民の皆さんに利用して貰いたいと考え、さらには海へのごみ流出を最終関門である「川」で食い止めたいことから、平成22年（2010年）から継続して清掃を実施しています。なお、当会は「いわき市クリーンピー応援隊」に登録しており、集めたごみは市ごみ減量推進課へ回収をお願いしています。

会報前号（9/27）以降の清掃活動は下表のとおりです。

月日	区分	清掃場所	内容	参加者数	備考
10月7日	定例	新川ひょうたん島	土砂撤去・草刈・ごみ拾い	8名	
11月4日	定例	河口右岸親水公園	草刈・ごみ拾い	5名	
12月2日	定例	防災ステーション	草刈・ごみ拾い	11名	
12月16日	臨時	新川ひょうたん島	土砂撤去	3名	



河口右岸親水公園



夏井川河川防災ステーション



新川ひょうたん島

毎月各所を清掃していますが、次回には元通りとなり四苦八苦しています。12/16はひょうたん島・階段に土砂が堆積して通行に支障を来していたため臨時として実施しましたが、参加人数が少なく最小限の範囲しか出来ませんでした。ひょうたん島は一回の大雨ごとに土砂が堆積するため、撤去するのにかなりの労力が必要です。参加者は年々高齢化していますので、多くの方、特に若い力（当会では60歳代を若手と呼ぶ）の応援をお願いします。

◆次回 1月・2月は極寒期のため休止とします。3月から再開します。

3/2（土）新川アリオス裏ひょうたん島 午前7：30～ 内容：土砂撤去・ごみ拾い

<寄稿文> いわきの鳴き砂

NPO法人いわき鳴き砂を守る会 理事長 桶田隆司

皆さん、『鳴き砂』をご存知ですか。海岸の砂浜を歩くと“キュッ キュッ”と鳴るあの砂です。砂の中にある石英粒が擦れあい、その振動で音が出ます。

阿武隈山地の花崗岩が風化した真砂土を夏井川が海に運んでいるのです。(図1)

鳴き砂は、ゴミがあると鳴かず、きれいな砂浜で鳴き音を発するので、『鳴き砂は環境のバロメータ』と言われています。いわき鳴き砂を守る会(以下守る会)は、この鳴き砂を保存し、未来へ繋ぐことを目的に活動しています。鳴き砂の現状と会の活動を紹介させていただきます。

◆鳴き砂の分布と特徴

守る会では、市内の16海岸を調査しております。東日本大震災前(H22)は、11海岸で確認されていましたが、地震後(H23)は地盤沈下・津波の影響で7海岸に減っていました。

海岸堤防の復旧工事が全区間で完了した後に行った調査(R3)では9海岸で確認されています。(図2)

いわきの鳴き砂の特徴を粒度分布で確認する事ができます。(図3と顕微鏡写真)



鳴く砂は、赤と緑の線で、粒径が細かく粒の大きさも揃っています。鳴かない砂は、粒径が大きく、粒の大きさも不揃いです。いわきの鳴き砂は全国平均より細かいようです。

◆活動状況 (R5年度)

①いわきプラージュ 2023 (9月9~10日) いわき駅前広場を会場に、鳴き砂体験、砂絵体験、砂像制作、砂遊び、高校OGによるフラダンス演舞。参加者 600名。

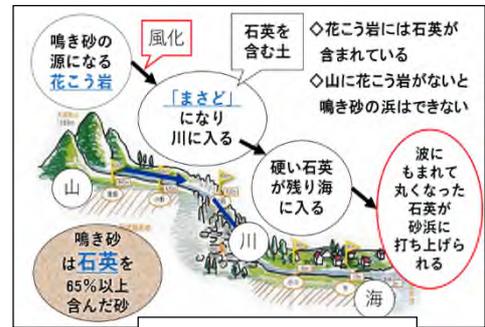


図1 鳴き砂の浜ができるまで

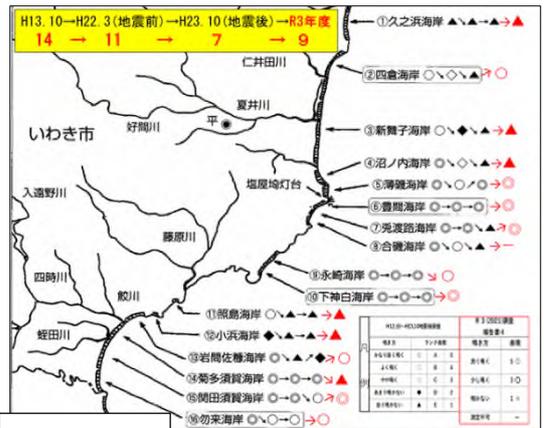


図2 鳴き砂の分布

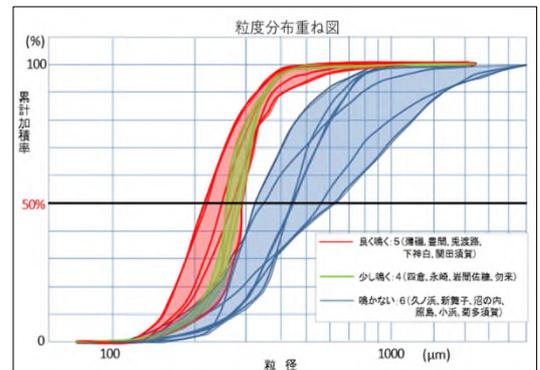


図3 鳴き砂の粒度分布重ね図



②トヨタソーシャルフェス 2023 (7月8日) 四倉海岸、ごみ拾いと鳴き砂調査。参加 250 名



③豊間海岸清掃・調査 (春5月、夏7月、秋10月、冬3月は今後) ゴミ拾い、鳴き砂調査、砂山コンテスト 参加者各回 10~30 名



④学校出前講座(9月19日中央台南中1年生19名座学と砂絵、11月9日小野小6年生65名座学)



⑤各地区砂絵講座 (10月19日高坂サロン7名、11月18日高坂9区子供会19名)



⑥いわき市海開き 2023（四倉海岸）砂像制作（7月15日）



■鳴砂サミット 2022inいわき（R4年11月、全国から50名）（R4年度の開催です）



高専生による『サミット宣言』

◆今後の展望

鳴き砂は、400 万年という長い年月をかけて作りあげられた自然遺産です。海岸環境保全は元より、河川にごみを捨てても海へ流れ出てしまいます。山・川・海、これらすべての環境保全の重要性を認識し、鳴き砂を地域の宝として守り、継承していきたいと思ひます。また、鳴き砂、砂絵の常設展示を行い、市民の皆様にもっと鳴き砂を知っていただけるようにしたいと思ひます。

守る会は会員の高齢化が進み人員不足で苦勞していますが、将来を担う学生会員枠に福島高専の学生さんが14名入会し、活躍してくれています。大変頼もしいです。

守る会は、これからも、

「鳴き砂は環境のバロメータ、地域の宝として守り、後世に伝えよう！」を合言葉に事業展開していきます。皆様、一緒に活動しませんか。会員を募集しております。ご支援をよろしくお願いいたします。

※ホームページをリニューアルしました。

URL <https://wakinakisuna.com/> ホームページQRコード



※今年度、『いわきプラージュ 2023』&『豊間海岸清掃・鳴き砂調査』が、国土交通省の【水辺・絆プロジェクト】の支援事業に採択されております。（福島県で初めての採択）

<事務局より>

■令和6年度から年会費が変更となります

昨年の総会で個人年会費を1000円から2000円に変更（1000円アップ）と決定しておりますので、何卒ご理解のほどお願いします。あわせて、新規会員の募集について周りの方々へお声かけなどご協力をお願いします。

■会報に記事を投稿してみませんか

当会は住民の立場で川に関して見て、考え、行動していこうとする会なので、皆様のご意見や希望等についての記事投稿をお待ちしています。どなたでも構いませんので、事務局または世話人へお知らせ下さい。但し、投稿頂いた記事は世話人会で内容精査してからの掲載となります。

■世話人会に参加してみませんか

当会は毎月第1火曜日に「世話人会」（18：30～）を開催し、事業の反省や今後の在り方など、いろいろな話し合いを行っています。会議時間は1時間程度で、誰でも参加できますので、是非ご参加ください。

会場は主にいわき市文化センター（いわき市平堂根町1-4）の会議室ですが、開催日も含めて変更となる場合がありますので、世話人または事務局へご確認下さい。



12月世話人会（兼忘年会）

■災害時の準備・対応を再確認しましょう

正月早々、能登半島でマグニチュード7.6の大地震と津波で大きな被害が生じています。いわき市でも2011年の東日本大震災（マグニチュード9.0）や2019年令和元年台風災の大きな被害を経験していますが、『喉元過ぎれば・・・』というように時がたつにつれて大変だった苦労を忘れつつありませんか。天災はいつ来るか判りませんので、どこを逃げてどこに逃げるか、どう連絡するか、緊急持出し品など再確認しましょう。

～～～ 会員の皆様からのご意見・御寄稿をお待ちしております ～～～
(活動報告・行事予定は下記ホームページでも案内しています)

【会報 第61号】 2024.1.10

発行 : 夏井川流域住民による川づくり連絡会 (略称:夏井川流域NW)

代表世話人: 橋本孝一

事務局 : 〒972-8311 いわき市常磐水野谷町亀ノ尾171地質内
田中博文 Tel)0246-88-8810 Fax)0246-88-8907

ホームページ : <http://blog.natsuigawa-karyu.net/> 夏井川流域で検索